

# 自己拡張型人工弁(SE-THV)を使用した経カテーテル大動脈弁留置術(TAVI)における Cusp overlap での人工弁留置が人工弁交連部と冠動脈入口部と位置関係に与えるポジティブな影響の検討

## ■ 研究の対象となる方

2017年3月～2021年9月の期間に、Evolut 弁を用いて経カテーテル大動脈弁留置術(TAVI)を行ったのちに、造影心電同期 CT を実施された方

## ■ 目的・方法

経カテーテル大動脈弁留置術では、網状の自己拡張型人工弁をカテーテルでスムーズに冠動脈へ運び、留置することが大切です。当院ではカテーテルにあるハットマーカの向きを調整し人工弁を留置する「Cusp Overlap Technique」という技術を、2020年9月より治療に用いています。本研究では、これまでの診療情報を収集し、解析することで「Cusp Overlap Technique」が冠動脈アクセスの困難さを改善できるかどうかを検証することを目的としています。診療の中で得られた情報を使用します。この研究のために新たな検査や調査をお願いすることはありません。

## ■ 実施期間

2021年11月2日～2022年3月31日

## ■ 研究に使用する情報

年齢、性別、基礎疾患の他、右冠状動脈(RCA)・左冠状動脈(LCA)入口部から隣接する経カテーテル心臓弁(THV)の交連部の角度など。

## ■ お問い合わせ

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

<b>連絡先</b>	済生会熊本病院 循環器内科 主任医員 神波 裕 (研究責任者) 住所：熊本市南区近見 5 丁目 3 番 1 号 電話：096-351-8000(代表)
------------	--

以上